



11月22日・23日【第2回 皮膚病理講座 診断編】開催

本年度最後のセミナーとなる今回は、日本医科大学にて開催し、80名を越す先生方にご参加いただきました。

診断編と銘打った本セミナーでは、アルゴリズム分析診断法の紹介に始まり、沈着・変性疾患、炎症性皮膚疾患、腫瘍性皮膚疾患などの皮膚病理診断の手がかりとなるパターン分類や、注目すべき所見の解説をいたしました。

ご参加ありがとうございました。



参加者の声 (アンケートより抜粋)

これまでの経験による絵合わせ診断では、初めて出会う疾患が診断できないことに不安を感じ、参加しました。大変勉強になったので、新しい気持ちで病理を見ていこうと思います。

今回で3回目の参加です。回を追う毎に知識が少しずつ定着しているかなと感じます。

病理を体系的に教わる機会がないので、とても勉強になりました。

パターン分類について、本を読んでは分からなかった部分も分かるようになりました。自分で使って勉強していきたいと思います。

来年度も各種セミナーを開催予定です。診断力向上のためにも、ぜひご参加下さい。日程は決まり次第ホームページやこちらのニュースでご案内いたします。



WHAT'S NEW

○●10/30●○
木村鉄宣院長のお誕生祝賀会を行いました。



これからもますます元気に、皮膚病理診断学発展のための活動を続けていくと、決意を新たにしております。

ケーキのロウソクを吹き消し、お花のプレゼントです。



○●11/25●○
10月より研修にいらしている仙波裕子先生（三重大学皮膚科）と野口武俊先生（虎の門病院皮膚科）の歓迎会を行いました。

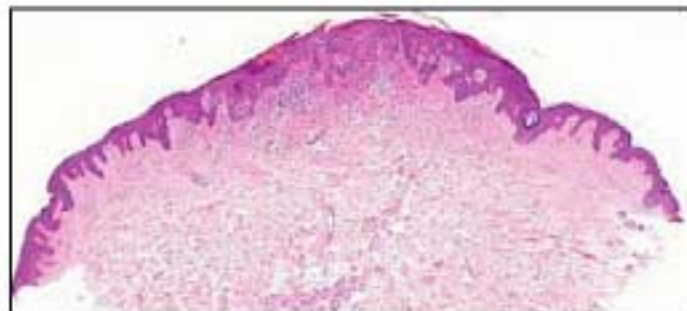


仙波先生(写真左)は3月末まで、野口先生(写真右)は12月末までの研修です。どうぞよろしくお願いたします。



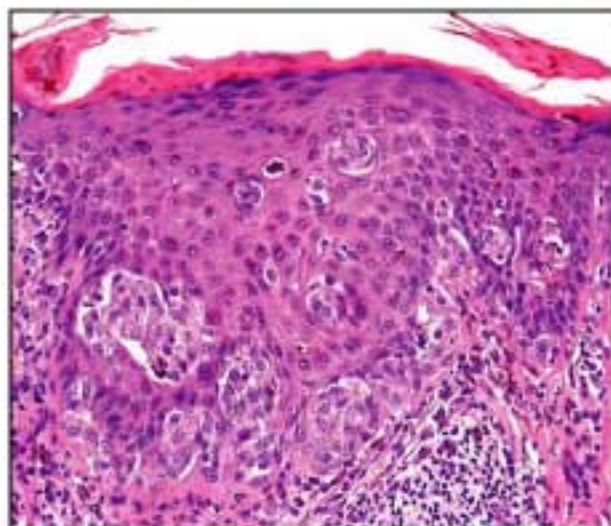
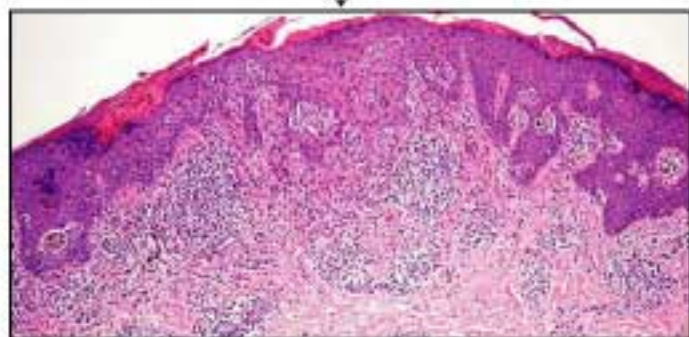
今月の症例

32才、男性 生検部位：右腹部 臨床診断：右腹部皮膚腫瘍
病理組織診断：Spitz's nevus (junctional type)

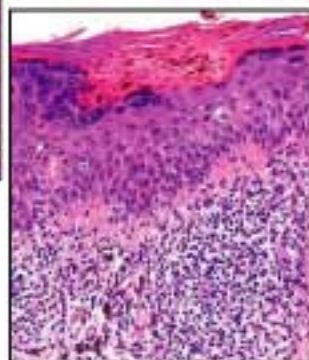


← 表皮内にほぼ左右対称性の胞巣状の病変があり、真皮上層に炎症性細胞浸潤を伴っている。

好酸性の細胞質を持つ色素細胞様細胞が胞巣を形成しながら表皮内で増殖している。表皮は hyperkeratosis と hypergranulosis を伴って肥厚している。

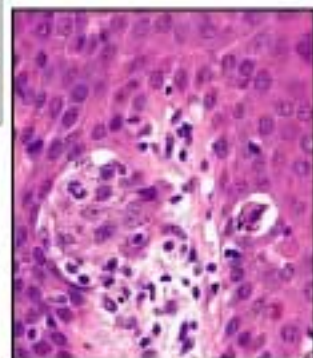


↑ 腫瘍細胞は孤立性あるいは胞巣を形成して、表皮下層を中心に分布している。一部の腫瘍胞巣の周囲には空隙がある。



← 角層内にはメラニン顆粒がある。

一部の腫瘍細胞は大きく、また核分裂像を伴うことがある。



セミナー情報

NPO皮膚病理

検索

COMING SOON

NPO法人皮膚病理発展推進機構ではインターネットを利用したセミナーを開催します。

インターネットセミナーは

- ・会場を使用しないため、人数制限がない
- ・参加者が都合の良い時に参加できるため、時間の制約がない
- ・何度でも繰り返して検討、勉強をし、力を伸ばすことができる

など、大変便利な使い方ができます。高度な病理診断能力を持つ人材を広く育成する、大変有意義な会となります

第3回 インターネット皮膚病理診断検討会

2009年12月25日 ~ 2010年2月15日 開催予定

参加者から募集した演題症例をインターネット上に公開し、掲示板を利用したディスカッションを数週間行います。座長によるとりまとめを行い終了となります。

第1回 セルフアセスメント勉強会

2009年春 開催予定

病理スライドをインターネット上で提供し、参加者各自が診断をします。期日に発表される正解と解説を自己で照会し、更なる病理診断能力の向上に役立てることが出来ます。

演題募集要項などの詳細は、ホームページ上で発表いたします。もうしばらくお待ち下さい。

<http://www.npo-jdpo.org>

発行：札幌皮膚病理診断科

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842

e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com> 編集担当：高野 敦子